

(様式3)

環境教育推進校における研究成果報告書[令和6年度]

学 校 の 概 要	学校名	宮崎県立都城商業高等学校			
	所在地	〒885-0053 宮崎県都城市上東町31街区25号			
	校長名	大脇 光徳			
	生徒数		1年	2年	3年
		男子	43	49	62
		女子	115	112	94
	学級数	合計	164	161	156
		学年	1年	2年	3年
	職員数	学級数	4	4	4
	職員数	55			
研究の実績					
[研究テーマ及び設定の理由]					
「廃棄される焼酎芋の絞りかす等を利活用した紙漉き文化の再生」 かつて都城市下長飯町では紙漉き文化が盛んだったが、紙産業の急成長と後継者不在のためその文化は衰退した。今回の研究を機に、地域でプロジェクトを立ち上げ持続可能な文化とし、紙の原料は都城産の楮と焼酎芋の絞りかす等を活用するため。					
[推進の全体構想]					
I 運営組織					
<pre> graph TD Principal["(指導・助言) 校長"] --- SEC["(外部評価) 学校評議委員会"] Principal --- OC["(推進者) 運営委員会"] Principal --- SM["(内部評価) 職員会議"] OC --- EEP["(企画) 環境教育推進委員会"] EEP --- TR["(実施) 【課題研究】 紙漉き文化再生 プロジェクトチーム 共創ウェルビーイング部"] EEP --- GY["各学年"] EEP --- GK["各教科"] EEP --- SB["事務部 (予算管理)"] EEP --- DPP["都城市地域プロジェクト 柳田酒造合名会社 紙漉 福田 宮崎大学 地域資源創成学部"] </pre>					

2 本年度の主な研究実践内容

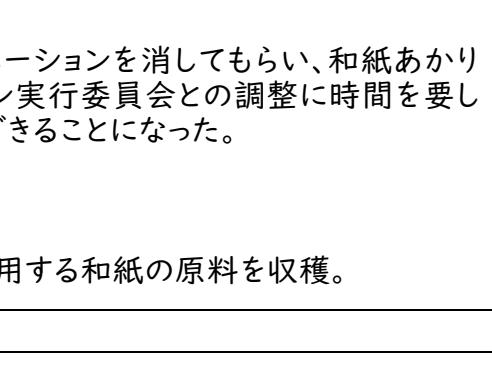
[課題研究]

「文化再生」と「環境保護」に着目。2つをかけ合わせて、持続可能な商品開発や、新しい産業を生み出すことを目標としてフィールドワークやワークショップを行う。

[共創ウェルビーイング部]

地域課題を洗い出し、課題研究と連携して地域を盛り上げるイベントを実施するなどかつての文化復興を目指す。

3 年間実施内容

月	取組の内容	
4	プロジェクトメンバーを募り目標達成に向けて連携する外部の諸機関や個人に相談する。	
5	フィールド・調査活動の実施 ・市内の宿泊施設内にあるクラフトルーム(和紙が使われている部屋)の視察	
6	市立図書館内の蔵書をあたり、地域の紙漉き文化について調べる ・下長飯町でフィールドワーク(地域に残っている紙漉きの道具、和紙の原料の楮の調査)	
7	紙の原料の楮を探す ・柳田酒造合名会社でフィールドワーク(焼酎を製造する過程で出る廃棄物を調査、商品開発の提案) ・和紙の原料である楮を校内で栽培(通年)	
9	ワークショップの企画・準備 ・市内の高校生を対象とした紙漉き体験と商品開発のワークショップ	
10	手漉き和紙キャンドルを商品開発 ・環境保護の視点でロウソクは近隣の寺等で廃棄予定のものを譲ってもらい、ロウソクの芯は紙漉きで作成した和紙の切れ端を利用。	
12	「和紙あか Re ナイト」実施 ・都城市中心市街地中核施設のイルミネーションを消してもらい、和紙あかりキャンドルを灯すイベント。イルミネーション実行委員会との調整に時間を見たものの、高校生の熱意が伝わり、実施できることになった。	
1	都城市立図書館でワークショップを実施 和紙を使用した商品を模索、来年度に使用する和紙の原料を収穫。	

[研究の実際]

(1) フィールドワーク・ワークショップ

①紙の原料の楮を探す

都城市下長飯町に残る紙漉き文化を探る。この取組の全行程を、地域における協力者である都城市地域プロジェクトマネージャー池田浩二氏、十文字学園大学松永教授に伴走していただきフィールドワークを行う。

②紙漉きレクチャー

宮崎県内の紙漉き職人「紙漉き 福田(綾町)」の福田雅美さんを講師に招いて霧島ホールディングスから焼酎芋の絞りかすやヤマエ食品工業の廃棄大豆等を提供してもらい、楮を混ぜた紙漉き体験を実施する。



③都城産の紙を使用した商品開発のためのワークショップ



宮崎大学地域資源創成学部谷田貝孝教授によるワークショップを実施。和紙には、地域事業所から出た産業廃棄物をトッピング。参加者の好みにより、押し花(花屋から廃棄される予定の花をもらってきて、押し花に加工)、焼酎のもろみ粕、茶葉(製造過程で出るもの)から選んでもらい、和紙の原料に混ぜて漉き込んだ。

④校外で地域住民に向けてのワークショップ

都城産手漉き和紙
商品開発
WORKSHOP

都城商業3年課題研究
「紙漉き文化再生プロジェクト」
(環境教育推進事業)

都城だからこなれた手漉き和紙教室。私たちがそのまま手漉き和紙を、実際につけたための取り組みをしていくプロジェクトです。

今日は、手漉き和紙を手作りしたお母さんを招待しますが、商品として販売する変更や出ることになります。
お問い合わせして販売用紙を変更して販売することになります。

2024.10.5 (土) 10:00~14:00

10:00~11:30 手漉き体験
11:30~12:30 沈浸
12:30~14:00 手漉き和紙を使った商品開発ワークショップ

アート参考を使って商品開発ワークショップ

実施場所 ウェルネス交流プラザセミナールームB
(対象) 高校生(事前申込制、定員20名)
(参加費) 免料
(持ち物) 手拭きタオル、筆記用具、些食、飲み物等

主催 宮崎市立農業高等専門学校「紙漉き文化再生プロジェクト」
共催 オンカムビービングプロジェクト

都城紙漉きプロジェクトマネージャー 池田 浩二
監修 宮崎市立農業高等専門学校
連絡先 090-22-1758 電話番号: 090-22-1758

CONTACT

MAIL: kodak@signum.com
TEL: 090-22-1758
WEB FORM: www.okuni-lab.com/
開催日: 10月5日 (木) 17:00開始
会場: 10月5日になり次第開催となります。

(2) 商品開発・イベント

①和紙あか Re ナイト



使用するキャンドルは、都城市中心市街地中核施設のまちなか広場に設置するため、400 個準備することになった。キャンドルに使用する瓶は、学校内及び地域事業所に回収の協力を呼びかけた。キャンドルのロウは、近隣の寺等に協力を依頼、細かく碎いて瓶に流し込んだ。また、廃業した文房具から廃棄寸前の書道用の和紙を譲ってもらい、和紙の原料とした。手漉き和紙が 600 枚近く必要になったため、3 学年に依頼し、LHR 時間を利用して、学年全員に和紙を漉いてもらった。



②和紙に花を咲かせよう

都城商業高校「紙漉き文化再生プロジェクト」×「ファッションラボ」コラボワークショップ

和紙に花を咲かせよう

2025年1月25日(土) 10:00-16:00
(12:00-13:30は昼休み)

対象
どなたでも
(未就学児は保護者同伴)

シルクスクリーンとは?
トートバッグやTシャツに用いられる
身近な印刷方法です。

色と花の型紙をえらんで、シルクスクリーンで和紙にプリントしてみよう!都城商業高校「紙漉き文化再生プロジェクト」の高校生が製作した和紙を使用します。

時間
10:00-16:00 (12:00-13:30は昼休み)
※材料が無くなり次第終了します。

会場
ファッションラボ (都城市立図書館2F)

対象
どなたでも (未就学児は保護者同伴)

参加費
無料

申込方法
当日会場にて随時受付
※15分程度で終わる内容です。

連絡先
都城市立図書館 電話: 0986-22-6239

HP
<http://mailmail.info/library.html>

Instagram
[@_l Miyakenjo](https://www.instagram.com/_l Miyakenjo)

●専門のインクを使用します。白衣をご用意しておりますが、当のため汚れてもいい、作業しやすい服装でお越しください。



都城市立図書館で「ファッションラボ」とコラボレーションしワークショップを実施。

12月のイベント「和紙あか Re ナイト」で使用した和紙を再利用して、和紙にシルクスクリーンをするワークショップを行った。

[成果と課題]

- ・日本持続発展教育(ESD)推進フォーラム主催「ESD大賞」 全国優秀賞受賞
- ・「全国ユース環境活動発表大会」地方大会(九州・沖縄)
「全国ユース環境活動発表大会」全国大会 最優秀賞受賞
全国優秀賞受賞
- ・MRT環境大賞 「キラリと光る活動賞」受賞



都城市副市長を表敬訪問し活動報告



地域産業への貢献: 楠の栽培から紙漉き、商品開発までの一連のプロセスを体験することで、生徒たちは地域産業への理解を深め、その魅力を再認識した。これは、地域産業の担い手不足という課題解決に向けた意識改革に繋がり、将来的な地域活性化への貢献が期待される。また、地域産品とのコラボレーションによる和紙開発は、新たな商品を生み出すことで地域経済の活性化にも貢献できた。

伝統文化の継承: 伝統的な紙漉きの技術を習得しただけでなく、地域住民にその技術を伝えるワークショップを開催することで、生徒たちは伝統文化の継承者としての自覚を育むことができた。ワークショップは地域住民にとって伝統文化に触れる貴重な機会となり、地域全体の伝統文化に対する関心の向上に繋がった。

循環型社会の実現: 地域産品とのコラボレーションによる和紙開発は、地域資源の有効活用と廃棄物削減という観点から、循環型社会の実現に向けた具体的な取り組みとして注目を集めた。生徒たちは、環境問題に対する意識を高め、持続可能な社会の実現に向けて主体的に行動することの重要性を学んだ。

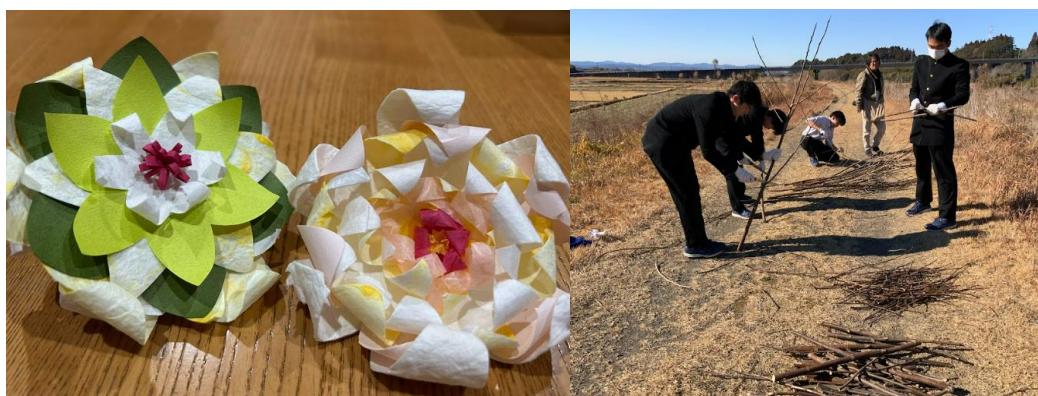
生徒の成長: プロジェクト活動を通じて、生徒たちは主体性、創造性、コミュニケーション能力、問題解決能力など、社会で必要とされる様々な能力を身につけ、大きく成長できた。これらの経験は、生徒たちの将来の進路選択やキャリア形成にも大きく役立つと考えられる。

4. 今後の課題

商品化に向けた取り組み: 開発した和紙を活用した商品の魅力を更に高め、実用化・販売に向けて、デザイン、価格設定、販路開拓など、具体的な検討を進める必要がある。そのためには、専門家からのアドバイスを受けたり、地域企業との連携を強化したりするなど、外部との協力体制を構築することが重要となる。

情報発信の強化: 本プロジェクトの成果や生徒の活動を地域内外に広く発信し、関心を高める必要がある。ホームページやSNSなどを活用した情報発信に加え、地域メディアへの広報活動や、展示会への参加なども検討する必要がある。

継続的な活動体制の構築: 本プロジェクトを単年度で終わらせるのではなく、来年度以降も継続的に活動できる体制を構築し、地域との連携を強化する必要がある。そのためには、学校内での組織体制の整備、予算確保、人材育成などが課題となる。



5. まとめ

本年度の環境教育推進事業は、生徒たちの主体的な活動を通じて、地域産業の活性化、伝統文化の継承、循環型社会の実現に貢献できた。生徒たちは、このプロジェクトを通じて、地域貢献の大切さや伝統文化の継承の意義を深く理解することができた。今後は、商品化に向けた取り組みを進めるとともに、地域内外への発信を強化し、本プロジェクトの成果を更に発展させていきたい。

6. 謝辞

本事業の実施にあたり、ご協力いただいた地域の皆様、関係機関の皆様に深く感謝申し上げます。

(様式4)

環境教育推進校における決算報告書[令和6年度]

学校名 宮崎県立都城商業高等学校

費目	金額	備考
旅費	1,764	講師
需用費		
楮他	72,660	
簀柄他	46,160	
クリアケース他	6,783	
簀柄他	41,800	
紙の素	73,645	
報償費	20,000	講師
使用料及び賃借料		
タクシー	12,140	
タクシー	13,500	
施設借り上げ料	4,510	
ジャンボタクシー	50,000	
ジャンボタクシー	50,000	
合計	392,962	

(添付資料Ⅰ)

宮崎日日新聞

8月20日号に掲載

地域と一体で循環型和紙作り

都城商業高・紙すき再生プロジェクト



「中堅の企業で採用率が高まっていることをサポートする方向性のフレームワークタマネジャー」。黒田浩二さんは何を作らによると、同席では昭和20年代ごろまで続いた和紙作りが行われていたという。



研究者の学識などについて 専門家からレクチャーを受 けた。(深松義弘)



西側の山地は、西側に開拓していくと
東側の開拓を容易にする。



社員の事務所から選出者を受けた飛び込みなども相続
競りとして明らか



本章由谁写入



和歌の原點となる「カシ」の発分け方に
ついて実験的吟味活性化団体「KASHI-
GO」・山田正の小林美雲二さん(右)から
解説を受けた。(撮影:川上洋子)

100

『都城市広報誌 12月号』に掲載

繩文文化考古プロジェクトメンバー
（左）越後高田見付見付さん、上段右から
木村真理さん、佐藤美穂さん、西澤凜
さん、柳原麻衣子さん、内山玲奈さん。
二井貴子さん、陣之内ひづるさん、下
田友から山根理香子さん、荒原一さん、
鶴岡祐介さん、内村ひなさん、と田
さん（左上）、藤原さん（右上）、北瀬
さん（右下）、藤本水川和川駿也、西生
さん、伊藤千尋さん、大庭さん、野口一子
さん、佐藤さん、しげくわーくさん、アラモ
さん、柳原さん、高橋さん、吉田さん、
福田さん、美ひかさん、鈴木さんを学ぶ。
（右）現代の鹿児島の様子

でしまったので、ずっと水にこなしておいたが大成功だ」と。手書き和紙作りの難を体験しました。

のほのかな恋愛を軽
米につなぐ恋「恋」を
語り、「いるいなな
活用し、恋愛をした伝
を復活させたい」
バーの木村謙ちゃん
込みます。輝く鏡で
ぐに未来を見渡せる
地獄は終焉ます。

池田さんの思いと
行動は力が大きい。

「他の記述は生徒の記憶に残り難いつながり」
理窟教育を採用する各校の取組
私も含めたる者がエクシード、油田
などにはじめ多くの人の協力により
思いの少ない学習にならなくなっています。
また、この洁潔の上で生徒たちを自ら
授業したり、どうすれば伝わるか
を想い、「問題」から出でる点を

第1章 项目管理与项目管理软件 1

「みんなが物語るくなるかな」を題材に、そこまで大きなプロジェクトに飛び込んで貰う。重複しているのは、「まちの配記」です。どちらも同じような構成が広がる中で、その土地の歴史・風土の中に、そこまちの歴史や文化の面でも、そのままの形で残っているのかなと思います。

(添付資料2)
MRT 宮崎放送 12月21日(土)放送

紙すきの文化再生に取り組む高校生がキャンドルイベント



MRT 宮崎放送 特集放送 2025年1月12日(日)

MRT特集

高校で「紙漉き文化再生プロジェクト」衰退した伝統産業を再び



(添付資料3)
宮崎日日新聞



環境活動發表九州大會最優秀 全國

環境活動発表九州大会最優秀 全国へ

長育講座「キッズキッチン」を、宮崎市

載新聞新聞壳壳



(添付資料4)
全国ユース環境活動発表大会プレゼンテーション資料

	宮崎県立都城商業高等学校 手漉き文化再生プロジェクト		宮崎県都城市 豊かな自然	
手漉き和紙文化再生 × 環境保護	文部科学省 フィールドワーク 佐賀の田舎について文部省語 手漉きと紙を育むためのアートの発見	紙漉き職人による講習会 手漉き和紙の良さを実感!	フィールドワーク 再生する村こうや 和紙の農耕を探しに! 和紙に植木鉢	
産業廃棄物も 漉き込んで 再生させちゃおう！	手漉きいはば一挙勝利！ 	柳田義作合名会社 美学の文房具 	手漉き和紙ワークショップ実施 	
手漉き和紙を商品化！ 	手漉き和紙を再活用！ 	アーティストによる「和紙アート」を鑑賞 	地方活性化マーケティング実施 	
アーティストによる「和紙アート」を鑑賞 	アーティストによる「和紙アート」を鑑賞 	アーティストによる「和紙アート」を鑑賞 	「和紙アート」で手作り蜡燭 	
	和紙に花を咲かせよう http://www.washiaka-renite.com	和紙に花を咲かせよう http://www.washiaka-renite.com		
	どんなに情報化が進んでも、 大切にしたいのは ひとの手でつくり出す もののぬくもり。	ミライへつなぎたい、 手漉き和紙文化。		ご参加ありがとうございました。 RE-HYUDA, WASHI